一般社団法人栃木県建設業協会 「地域の守り手」誇りを持って!!

近年、全国各地で地震や異常気象による自然災害が頻発しています。比較的災害が少ない本県でも平成27年９月に発生した「関東・東北豪雨」は、各地に甚大な被害を与えました。災害時に一番に現場に駆けつけて、迅速な応急・復旧活動を行う地方の建設業者の活動は近年必要不可欠となっています。地方建設業者が「地域の守り手」として住民から頼られ、必要とされているのです。「関東・東北豪雨」でも、災害復旧活動に栃木県建設業協会に加盟する建設業者の皆さんが活躍されました。今回各社の若手技術者による座談会を開催し、関東・東北豪雨の時の対応や「地域の守り手」として期待されていることについて、率直に語ってもらいました。（企画・制作　下野新聞社営業局）

地域の安全安心へ役割重要

（一社）栃木県建設業協会

会長 渡邉　勇雄

建設産業は、安全・安心で快適なくらしに直結する道路・河川などの整備・維持管理や、教育文化・産業施設など地域の発展につながる社会資本の整備を通じ、住民生活の向上を担う地域に欠かせない産業です。

また、災害時には技術力や人材・資機材等を活用し、行政に協力して応急・復旧活動や救助に協力する『地域の守り手』として大変重要な役割を担っています。地域社会を支えるその大きな使命は、地震や異常気象における豪雨災害への迅速な対応など、改めてその重要性が再認識されています。

しかしながら、建設業の次世代の担い手と期待される土木・建築学科卒業生等が減少しており、若手への技術・技能承継は大きな課題となっています。

本会といたしましては、『地域の守り手』をテーマとした座談会を通じ、災害時における現場の初動対応から復旧作業に至るまでの活動の様子から、活力と魅力あふれた建設産業の姿が次世代を担う若者達に共感を促し、故郷（ふるさと）の建設業への入職促進に繋がるよう期待しております。

明日（11月18日）は、『土木の日』です。あらためて、土木の仕事は快適で豊かな街づくりはもちろん、災害対応など幅広く生活に密着しており、私たち建設業従事者は誇りと自負を持って取り組んでおりますことをご理解ください。

結びに、この度の企画特集に際して、公益財団法人建設業福祉共済団の全面的なご支援を頂き深く感謝申し上げます。

「地域の守り手」について語った県建設業協会の座談会出席者

将来に期待される建設業

快適で安全なまちづくり

●岩原 近年、全国各地で地震や異常気象による自然災害が発生し、本県でも平成27年９月の「関東・東北豪雨」では甚大な被害を受けました。私たち地方の建設業者が「地域の守り手」として住民から頼られ、必要とされる時です。社会資本の整備や防災・減災対策などその役割はますますクローズアップされています。しかし、建設業界では少子高齢化、団塊世代の大量退職などで担い手の確保・育成が喫緊の課題となっています。

—自己紹介と業界に入ったきっかけ、やりがいなどを教えてください。

●田嶋 宇都宮支部の千葉建設で道路維持管理を担当している田嶋雄介です。自ら作業したことが人々のためになることにやりがいを感じています。今以上に知識や技術を向上させて快適な道路環境づくりに貢献していきたいです。

●荒川 鹿沼支部の機械建設で土木施工管理業務全般を担当している荒川勇太郎です。現場では大変なことも多いですが、現場が少しずつ出来上がって、完成したときの達成感にはやりがいを感じます。利用者や地域の方々とより近い位置で仕事を携わることができます。作ったものがずっと残る仕事なので、より良いものをつくっていきたいです。

千葉建設　田嶋雄介氏

機械建設　荒川勇太郎氏

●礒田 同じく鹿沼支部の神谷建設で土木現場の施工管理業務全般を担当している礒田悠希です。平成29年９月までは鹿沼市内の道路改良工事の現場代理人の職務についていました。普段なにげなく通っている道路や橋などは、あって当たり前のものと思いがちですが、その裏ではたくさんの苦労や努力をして作っています。そんな縁の下の力持ち的なところにやりがいを感じています。これからも良いものを作り、人々から感謝される、そんな仕事をしていきたいです。

●松本 日光支部の松本建設で土木工事の現場代理人補佐を担当している松本俊哉です。ものづくりの仕組みや楽しさにやりがいを感じます。若いうちにたくさんの経験を積み、これからの建設業界を盛り上げていけたらと思っています。

土砂で覆われたライフライン確保作業（宇都宮市　古賀志町地内）

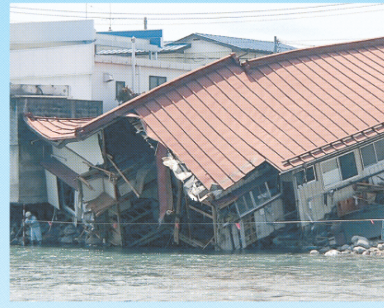
●古屋 同じく日光支部、東武道路工業の古屋新二です。現在は鹿沼市粟野地内で舗装修繕工事を担当しています。監督を務めていて感じたことは、作ったものが完成した時には達成感が得られます。そこにやりがいを感じます。

●成田 下都賀支部の佐藤工業で監督業務全般を担当する成田楓です。関東・東北豪雨の時、私はこの業界1年生で、右も左も分からない状態でしたが、災害復旧の現場を担当させていただき、達成感とやりがいを感じました。

現場に土を搬入するために仮設道路を設置（壬生町　姿川　淀橋下）

安心して暮らせるまちに

—災害時の迅速な応急・復旧活動を行う地方の建設業界は今、「地域の守り手」として期待が高まっています。そのことをどう受け止めていますか。また若い世代を建設業にとって魅力ある建設業界とするにはどうすればよいですか。



護岸復旧作業前の災害状況を確認（鹿沼市　黒川　御成橋）

●田嶋 「地域の守り手」と呼ばれることは光栄です。期待に応えられるよう日々努力をしていこうと心掛けています。若い世代を引きつけるには子どものころから親しみを持てるような活動をすることが重要ではないでしょうか。

●荒川 地域の方々の暮らしを支える仕事として、とても責任を感じます。「地域の守り手」として仕事をした結果、「地域の守り手」として貢献できればうれしく思います。建設業の仕事がインターネットの動画配信サービスでも簡単に見ることができます。そうしたものを利用してはどうでしょうか。

神谷建設　礒田悠希氏

●礒田 自分たちが地域の役に立てることはとてもありがたい事だと思います。同時に建設業の仕事の内容や重要性をもっと多くの人に知ってもらいたいです。特に子どもたちには小さい頃から仕事のやりがいと楽しさを知ってもらい、将来の若手技術者として増えていければ良いと感じます。そのためにも私たちが改善するべきところは改善していかなくてはならないと思います。

上野勝弘　副委員長

●松本 「地域の守り手」として期待されていることは、光栄なことです。私は消防団としても活動しています。これからも両面で「地域の守り手」として日々活動していきたいと思います。SNSなどを使って建設業の素晴らしさを伝えていくのが良いのではないでしょうか。

●古屋 企業として努力することが将来、重要視されると思います。そうなれば若手技術者も増えると思います。給与と休暇など、待遇面での改善も必要ではないでしょうか。

●成田 私は初めに姿川にかかる淀橋の堤防が流されてしまった現場に行きとても衝撃を受けました。それは収穫間際の稲穂が砂利や砂に埋もれ、一生懸命育てたものが一瞬でなくなってしまったことです。地元の人がとてもショックを受けていました。こうした災害が発生した時は迅速に対応し、丁寧で確実な作業を行わなければなりません。地域の皆さんがより住みやすく安心して暮らせるようにすることが私たち建設業の立ち位置だと思います。

—皆さんのお話を聞いて地元の方々も安心して地域で暮らせると再認識されたことと思います。高い使命感を持って現場で作業をされているということが良く分かりました。

吉田亘　副委員長

座談会出席者

宇都宮支部	㈱千葉建設	田嶋雄介	氏
鹿沼支部	機械建設㈱	荒川勇太郎	氏
	神谷建設㈱	礒田悠希	氏
日光支部	㈱松本建設	松本俊哉	氏
	東武道路工業㈱	古屋新二	氏
下都賀支部	佐藤工業㈱	成田楓	氏
広報委員会	委員長	岩原正樹	氏
	副委員長	吉田亘	氏
	副委員長	上野勝弘	氏

松本建設　松本俊哉氏

地域から今、必要とされる時

災害復旧活動に尽力

岩原正樹　委員長

—平成27年9月の「関東・東北豪雨」で、皆さんは応急・復旧活動に尽力されました。その時の対応について、お聞かせください。

●成田 姿川の河川土工事で大型土のうや仮設道路を作りました。工期は9月11日から10月23日でした。堤防復旧の現場で、東武鉄道の橋脚が流されたところで、鉄道復旧に合わせて早く完了させるというプレッシャーがありました。対岸は田んぼでしたが、地主さんの協力で搬入口を作ることができたことは、今も感謝しています。搬入口や現場も二次災害がなく工期内に終わりました。

●古屋 日光市内は、台風による大雨で田んぼの土手が崩落し、復旧工事を行いました。土砂で埋もれたU型水路を布設替えし、崩落した法面を補強した後、大雨で流出した土砂を法面整形に利用するなどの方法を取り入れました。

●松本 田川で崩壊した川岸を連結ブロックで覆い護岸復旧する作業や流木撤去を行いました。ちょうど、田植え時期と重なり時間帯で変化する水量に対応した水替え作業は慎重を期しました。また、重機の移動や資材を置くスペースの制限にはとても苦労しました。

●礒田 鹿沼市の黒川で工事を行いました。鹿沼市御成橋上流部は台風の影響で河川が氾濫し、護岸が洗掘され人家が流されるなどの被害が出ました。工期は9月13日から30日でした。被災箇所まで行く道路がなかったのでまず仮設道路を作り、その後、大型土のう約1000袋を製作・設置しました。また、根固めブロック約150個を設置し、休日返上で作業を完了後、地元の方々から感謝の言葉を頂きました。

●荒川 鹿沼市奈佐原町で黒川の河川掘削工事を行いました。工期は約5か月間で、河川の中にある竹、木、土砂を取るという工事でした。

●田嶋 豪雨発生時から道路パトロール、通行止めの措置、通行車両への説明などを行いました。豪雨終了時は円滑な交通解放に向けての土砂撤去などをしました。工期は9月9日から10月6日でした。

—最後に吉田、上野両副委員長、岩原委員長、一言ずつお願いします。

大雨で洗堀された川岸に連結ブロックを布設（日光市　田川）

東武道路工業　古屋新二氏

●吉田 「地域の守り手」として自分がやらなければという使命感を持って取り組んでいる事を心強く感じました。皆さんの活動にこれからも期待します。

佐藤工業　成田楓氏

●上野 皆さんの本音を聞くことができて私も感じるところがありました。社会資本の整備は地味で、苦労も多いですが、自らの生業に自信と誇りを持ち、積極的に発信してください。

●岩原 皆さんのお話を聞いて「地域の守り手」としての意識が良く伝わってきました。今後も活躍してください。

若者に選ばれる魅力ある建設業

栃木県県土整備部

部長 江連　隆信 氏

平成27年9月の関東・東北豪雨では、建設業の皆様には、極めて厳しい状況の中で迅速な対応をして頂き、おかげさまで復旧工事が無事に完了できましたこと、深く感謝と御礼を申し上げます。

さて、建設業は、社会資本の整備や保全を担う産業として、地域の経済と雇用を支えるとともに、災害時には初動対応から復旧作業に至るまで、現場の最前線で社会の安全・安心を確保する役割を担っています。

一方で、少子高齢化社会が進展する中、「きつい・汚い・危険」の3Kをイメージする建設業は入職者が減少し、将来の担い手不足が懸念されています。

このため、県では、県土整備の総合的な指針である「県土づくりプラン2016」において、「次世代の県土を支える人づくり・協働」を重点取組に掲げ、建設業の担い手の確保・育成に繋がる取組みを進めています。

まずは、建設現場における「生産性の向上」と「働き方改革」を推進するため、ICT技術を活用した土工事や週休2日制モデル工事を開始したところです。

こうした取組みにより、「高い給与と長い休暇で希望が持てる」新3Kを実現し、若者に選ばれる魅力ある建設業を目指します。

県ではこれからも、「地域の守り手」として県民に期待され、将来にわたり必要とされる建設業の支援に努めて参ります。

崩落した法面補強で流出した土砂を利用（日光市　岩崎地内）

河床に根固めブロックを布設（鹿沼市　行川）

ますます制度充実
建設共済保険
法定外労災補償制度
掛金が安い
補償が厚い

大切な社員と会社を守りたい。

法定外労災補償制度

- 建設業界による自主的な共済保険で掛金が安い
- 企業の諸費用部分も補償
- 元請・下請問わず無記名で補償
- 事業主（保険契約者）への速やかな支払い
- 元請・下請それぞれの保険契約者へ重複支払い
- 経営事項審査において15点の加点

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。

育英奨学事業

被災者（死亡および障害・傷病3級以上）の子供に対して、要保育期間および小学校から大学までの在学期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。

労働安全衛生推進事業

① 安全衛生用品の頒布
② 女性専用トイレ導入費用に対する助成
③ 安全衛生推進者表彰　等

公益財団法人
建設業福祉共済団
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー11階
詳しい情報、掛金試算などのお問い合わせは
Tel.03-3591-8451 Fax.03-3591-8474
建設共済保険 検索

■ 取扱機関：（一社）栃木県建設業協会
〒321-0933　宇都宮市簗瀬町 1958-1
Tel. 028-639-2611　Fax. 028-639-2985

地域の守り手 建設業!! 安全・安心なまちづくり

降雪後のライフライン確保

地域の安全を見守るパトロール車

地域貢献活動（クリーンアップ）

大型土のうによる緊急復旧

（一社）栃木県建設業協会
宇都宮市簗瀬町1958-1　℡028-639-2611

宇都宮支部	℡028-636-5221
鹿沼支部	℡0289-65-2020
日光支部	℡0288-54-0140
芳賀支部	℡0285-82-2051
下都賀支部	℡0282-24-5420
塩谷支部	℡0287-43-0142
那須支部	℡0287-22-2124
烏山支部	℡0287-82-3161
安蘇支部	℡0283-24-3838
足利支部	℡0284-71-0044

栃建協 検索